

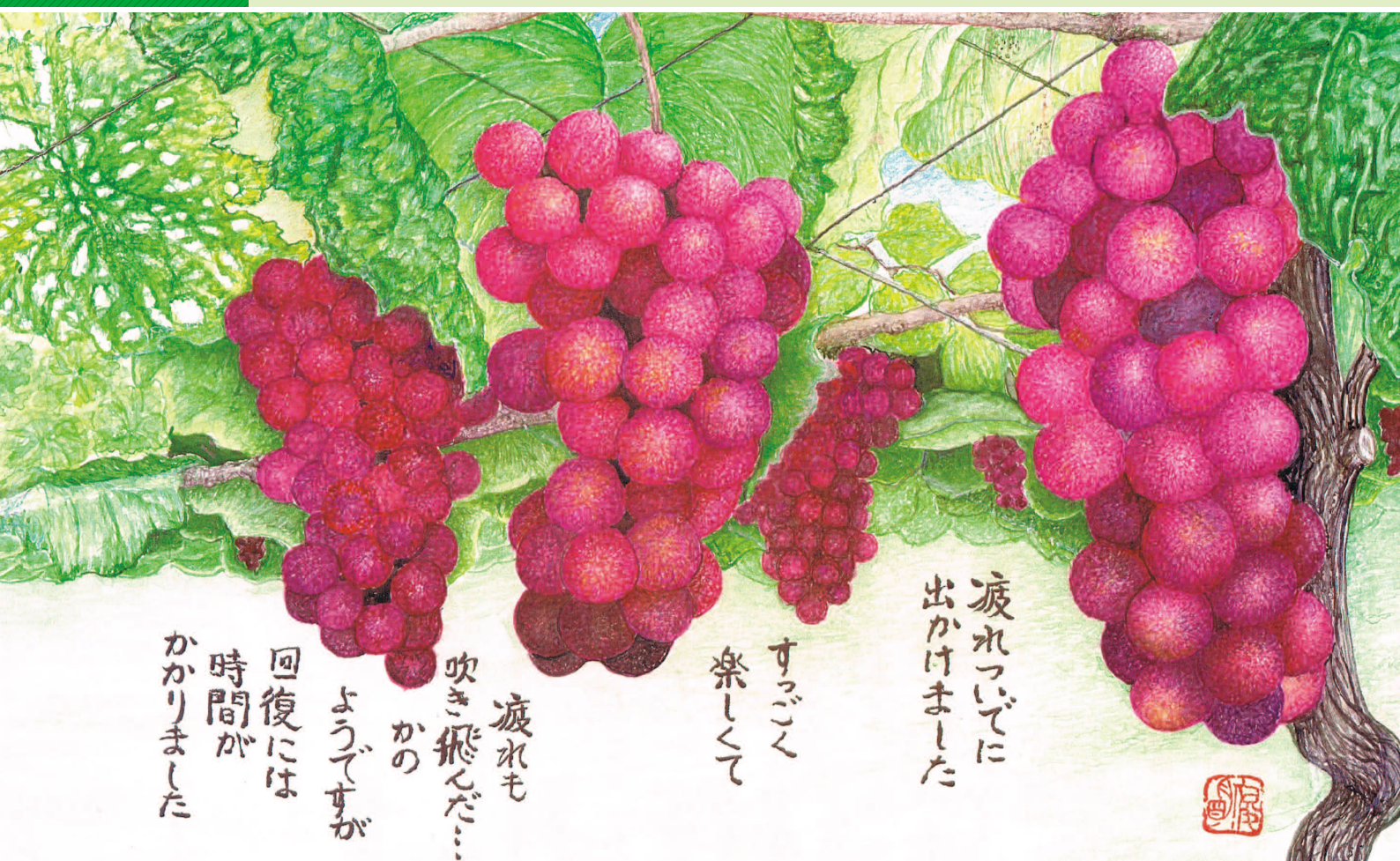
A X I S

6号

アクシス

- ・医療最前線
がんゲノム医療の幕開け
- ・阿部俊明さんを偲んで
～生きる喜び絵筆にこめて～
- ・座談会レポート
～リハビリテーション科～

6号



INDEX

行雲流水	1	座談会レポート リハビリテーション科	10
医療最前線	2	member	
新任職員紹介	4	遊んだ!学んだ!働いた!そして仲間ができた...	12
感謝を込めて追悼ページ	8	学術報告	14
		医療史への誘い	16

行雲流水

静和会 理事長 川上雅人

「生きる喜び絵筆にこめて」

既にご存知の方が多いと思いますが、小誌の表紙に素晴らしい詩画を提供してくださっていた阿部俊明様が亡くなられました。阿部氏の苦難に満ちた人生や、それを支え続けた奥方の直子様はじめご家族、友人の方々の日々については後述に譲りますが、その日々を悲観することなくユーモラスな詩とともに絵筆に込めたメッセージは、我々に多くの感動を与えてくださいました。職員を代表し謹んでご冥福をお祈りし、深く感謝を捧げたいと思います。

折しも、静和会は、静和記念病院と平和病院を合併し、新たな使命を持った病院への胎動が始まっており、様々な人々のご協力をいただきながら、日々実現に向けて前進している。

目指している新病院の機能は、急性期・慢性期・緩和・地域包括病棟を有し、法人内外の地域との連携を深化させると同時に施設完結と地域完結が可能となる病院であるが、静和会スタッフとともに作り上げていきたい新病院の真の姿は、病院や様々な障害で苦しんでいる患者さまやご家族に出会ったとき、いかに向き合い、いかに助け合い、難難辛苦を共有することで信頼が生まれ、治療だけではなく、支えることでお互いに感謝と笑顔が満ちてゆく家庭のような病院である。

それは、まさに、阿部氏やご家族が、我々に示してくれた矜持ではないだろうか、職員にとっても、患者さまやご家族にとっても安らぎのある病院を設立することが、阿部氏のメッセージに対する我々の気概であらう。

そのような願いも込めて新病院に向けて職員皆様のご協力を是非よろしくお願い致します。

がんゲノム医療の幕開け

平成30年4月、がん治療における患者さんの遺伝子を網羅的に調べ、最適な薬や治療法を見つけ出す「がんゲノム医療^{※1)}」が本格的に始まりました。今回は、ゲノム医療を実施する全国の指定病院について、米国のゲノム医療の現状について、そして、国内のがん遺伝子検査のこれからについてご紹介します。

■がんゲノム医療が本格的にスタート

平成30年に入り、厚生労働省は「がんゲノム医療」の中心となる「がんゲノム医療中核拠点病院」11ヵ所を発表、北海道ブロックからは北海道大学病院が選定されました。また、がんゲノム医療中核拠点病院と連携する全国100ヵ所の連携病院を公表しました。北海道エリアからは北海道がんセンターと札幌医科大学附属病院が指定されました。連携病院は中核拠点病院と連携して、がん組織を用いた遺伝子検査を実施し、その結果をもとに治療します。

このように国民が全国どこにいてもがんゲノム医療を受けられることを目標に体制を構築してい

きます。現在、岩手、群馬、大分、熊本、沖縄の5県にはありませんが、今後全ての都道府県に連携病院を設置する予定です。

中核拠点病院・連携病院とは、国が定める保険診療で認められた遺伝子パネル検査を行うことができる病院であり、がんゲノム医療を行う連携病院は中核拠点病院と協力しながら患者さんにゲノム検査について説明を行い、検査結果に基づいた治療を、実施する役割が期待されています。

標準治療が終了、または終了が見込まれ、かつ全身状態の良い患者さんや希少がん、原発不明がんなどが対象となるため、すべてのがん患者さんの約1%程度が検査対象になると考えられています。国内のがん患者さんは約100万人ですので、年間約1万人が対象となります。さらに、その検査結果を受けて遺伝子異常に基づく治療を受けられる方は、その10%程度と考えられています。

■米国のがんゲノム医療

平成27年1月、米国のオバマ前大統領が、Precision Medicine initiative（プレシジョン・メディシン・イニシアチブ）という100万人規模の遺伝情報のデータベースを構築し、国民一人ひとりに最適な医療を提供する一大国家プロジェクトをスタートさせました。

平成29年11月MSK-IMPACT、同年12月にFoundation Oneという2つの遺伝子検査が、米国食品医薬品局（FDA）によって承認されました。

MSK-IMPACTは468遺伝子、Foundation Oneは324遺伝子という数多くの遺伝子を調べることができます。それに対し日本の保険適用の検査では114遺伝子しか調べることができません。精度が高い米国の遺伝子検査に注目が集まっています。

■がん遺伝子検査の自由診療と保険診療

がん遺伝子検査を自由診療で受けられる道内の病院は、静和記念病院（札幌市）と北斗病院（帯広市）五稜郭病院（函館市）となっており、全国

では準備中を含め10施設程度あります。自由診療とは、公的な医療保険が適用されない医療技術や、薬剤による治療のことです。治療にかかる費用は、すべて患者さんの負担（10割負担）となります。

プレシジョン検査は160遺伝子を調べます。検査の結果が出るまで、受診後約3週間～4週間かかります。プレシジョン検査は保険診療の対象外の自費診療となるため、負担額は75万6千円（税込）となります。対象となる患者さんは、病理診断によってがんと診断され、がんの治療中、もしくはこれから治療を受けようとする方です。医師からの紹介状が必要となりお電話にて予約をしていただきます。

検査により遺伝子異常が見つかりがんの個性が分かる割合は約92%。そのうち治療薬が見つかる割合は約59%で、実際に治療につながった患者さんは約13%となっております。

がん遺伝子検査によって、親子や兄弟に影響がある家族性変異が見つかる場合があります。家族・親族間でどのように情報を共有していくのか、医師や遺伝カウンセラーの支援が不可欠です。

厚生労働省は、遺伝子パネル検査について、平成31年4月以降からの公的医療保険の適用を検討

しています。今のところ適用対象は小児がん、希少がん、遺伝性がんですが、今後対象がんは拡大されていくと思われます。がん遺伝子検査のような有効性の高い先進医療は、利用する患者さんが多くなる為、国の財政を圧迫するので、慎重に議論をしていく必要があります。

■日本のがんゲノム医療の今後

日本のがんゲノム医療は、諸外国に比べ遅れをとっている状況です。国民皆保険という仕組みががんゲノム医療の進歩を妨げていたのかもしれませんが。平成30年度に入り、中核拠点病院と連携病院の選定や、遺伝子パネル検査の先進医療の承認等、国家的ながんゲノム医療が本格的に動き出しました。今後病理学に関する専門的な知識、及び技能を有する医師や、遺伝カウンセリング等を行う人員の育成が必要です。また、全国の医療機関からの遺伝子データを集約した国家レベルのがん遺伝子データベースの構築が課題となります。

がんゲノム医療において、がんになった時点で自分の遺伝子変異を明らかにし、医師やカウンセラーと慎重に相談しながら、がんの治療法を選択していく時代がくるでしょう。

「がん遺伝子検査外来」のご案内 慶応義塾大学病院と同じ検査を受けることができます

静和記念病院では、予約制の外来診療で、自費診療にてがん遺伝子検査を実施しています。対象者は現在がんの治療を受けている患者さんです。受診希望の方は主治医からの診療情報提供書をご用意の上で予約申し込みをしてください。

診療日時 毎週火曜日午後

予約電話 011-611-1116

※要予約、自費診療、健康保険不可



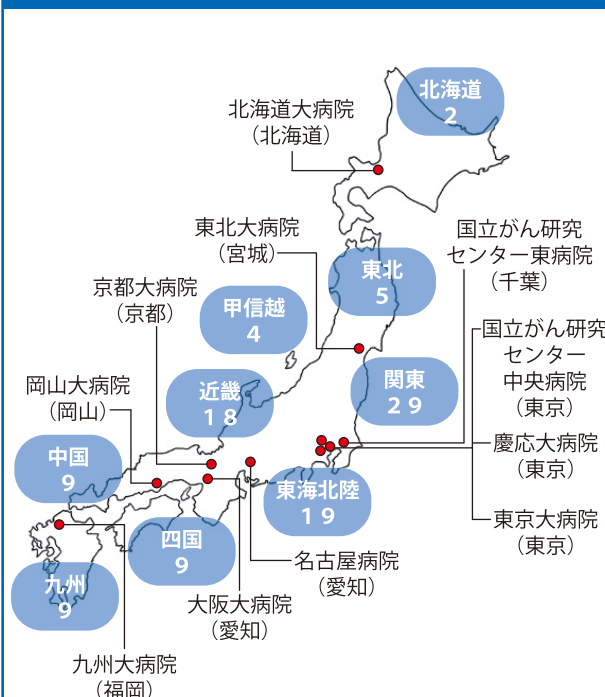
✦ 静和記念病院



■用語の解説

※1) がんゲノム医療：腫瘍組織からがんの原因である遺伝子異常を見つけ出し、個人にあった抗がん剤や治療を提案する。従来の臓器別・組織型別の治療とは異なり、個人個人に合った治療が可能となる。

がんゲノム医療の中核拠点病院と連携病院



※数字は連携病院の数

琴似看護専門学校 学校長 かね こ あきら 金子 明



本年4月1日より、琴似看護専門学校の第8代学校長として、勤務させていただきますことになりました、金子明と申します。

私は平成7年に本校に採用となり、当時の学校長は川上理事長が兼任されておりました。その後、看護職の学校長としては、故白戸とよ先生、勝又マリ子先生、木原キヨ子先生、そして前任者であります印部厚子先生へと引き継がれ、私で5代目となります。歴代の学校長からの教えを大切に、さらに学校を発展させるべく、学校運営を行ってゆく所存でございます。

まずは自己紹介をさせていただきます。私の出身は小樽で、看護学校は国立病院が独立行政法人に移行した時の統廃合により、すでに閉校となりましたが、神奈川県にある（現）国立病院機構久里浜医療センターの附属の学校でした。ここで学んだことが私の看護の原点であり、時代は変わろうとも、学生たちに大切に伝えてゆくべきことと、考えております。看護学校卒業後は、地元の小樽市立病院で、透析室、脳神経外科病棟、精神科病棟と勤務いたしました。そして、ご縁があり、今から23年前に本校の専任教員として採用され、その間に法人本部にも籍を置き、ちょうど10年間勤務させていただきました。

ですから、私は13年ぶりに本校に戻って来たこととなります。法人内の皆様の中には、当時一

緒に働いた方がたくさんおり、懐かしく心強くもあります。

さて、本校は1学年定員が35名、全学年合計が100名ほどの2年課程（定時制夜間3年）の看護学校です。准看護師として、働きながら就学出来ることを目的に、夜間に授業を開講しているのが特徴で、進学コースとも言われています。かつて札幌市内に4校あった進学コースは、本校のみとなり、その役割は大きいと自負しております。そうした中、琴似看護専門学校は今年50周年を迎えました。

この50年を支えてくださいましたのは、静和会関係者はもとより、実習施設の皆様、講師の皆様をはじめ、たいへん多くの、人の支えです。そして、何よりも地域医療に貢献してまいりました卒業生です。卒業生の中には、本校の教員もあり、また非常勤講師として教壇に立ち、あるいは臨床指導者として後輩達を指導してくださっている看護師が大勢います。こうした人と人の繋がりを大切に、教職員一丸となって、看護師育成に取り組んでまいります。ご指導、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

そして最後に、私のワーク・ライフ・バランスについて紹介です。一生懸命仕事をするためには、楽しみも必要です。私は、同じ看護師である家内と一緒にキャンプをすることが趣味で、休みが続くときには、キャンピングトレーラーを引っ張って、あちこちのキャンプ場に出かけます。自然の中で過ごしていると、また頑張っている仕事をし・・・と、力が湧いてきます。

静和記念病院 呼吸器内科部長 くり はら まき 栗原 真紀



日本内科学会 認定内科医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医
日本呼吸器内視鏡学会
日本肺癌学会
身体障害者福祉法指定医
かかりつけ医認知症対応力
向上研修修了

本年1月1日から静和記念病院内科・呼吸器内科部長として勤務させて頂いております。すでに半年近くが過ぎ、ついこの間入職したような、しかし多くの患者さん・スタッフと密な関わりを持ってきています。

いぶん前からいるような気もしています。

医師となって循環器・呼吸器内科で1～2年学んだあとは、呼吸器内科医として道内で勤務しておりました。道北病院時代には肺癌の治験、喀血に対して気管支動脈塞栓術、COPDの右心カテーテルによる評価なども行っていましたが、出産してからはやはり急性期病院での勤務は難しく、札幌山の上病院や手稲いなづみ病院・さっぽろ二十四軒病院で10年ほど、主に障害者病棟における慢性疾患患者の全身管理を担当していました。

そうやって急性期病床では働けないことに、うしろめたさや閉塞感を感じていた面がありましたが、2年ほど前に「ナラティブな医療」という言葉に出会って、そこから在宅医療を中心とした患者さんに寄り添う医療を学んでいくうちに、自分に出来ることとして大いにやる気が出ました。

開業医になることも多少は考えましたが、私がやりたいことは入院から在宅まで通してのかかわりとチーム医療であり、「地域包括ケアをやりた

い」という希望を叶えて頂けるとのことでしたので入職を決意しました。

地域包括ケアとは多職種連携の充実がなければ成り立ちません。今、院内ではずいぶん連携が強化され、病状不安定でも在宅療養を続けるためのサポートが円滑に進むようになってきました。

現在、訪問診療担当医として、24時間365日オンコールですが、何とかなると比較的楽観的です。入院生活を乗り越えて在宅療養となった患者さんたちは、皆さんとてもいい笑顔で別人のようです。訪問すると入院生活との違いを強く感じ、いつも感動があります。

私はこれといって決まった趣味はなく、どうしても週末はふたりの子供の行事が主となり気が休まらない日々です。そうはいつてもいつも何かしていたいので、インドアな家族を連れだしてなんちゃってのアウトドアを楽しんでいます。本当はキャンプで本格的にダッチオーブン料理とか、トレッキングとかしたいです（体力がなくてできません）。

患者さんの小さな喜びと一緒に喜べるような現場でありますように。どうぞよろしくお願い申し上げます。



訪問診療：患者さんのお宅にて撮影

静和記念病院 皮膚科部長 やま だ あや こ 山田 絢子



日本皮膚科学会
日本皮膚悪性腫瘍学会

今年の4月16日から静和記念病院に勤務しております、山田絢子と申します。2011年、神奈川県にある東海大学を卒業後に皮膚科へ入局し、大学病院に勤務し

ておりましたが、結婚のため2016年に北海道へ参りました。現在は1歳の子供の子育て中です。約1年間の待機児童を経て何とか保育園が決まったため、この春から復職させて頂きました。

静和記念病院にはこれまで皮膚科がなかったため、一からのスタートとなっています。まだまだ不慣れな点多いかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

皮膚科診療を開始するにあたって用意した医療器材をご紹介します。



ダーモスコピーを使った検査の様子

【光学顕微鏡】

白癬、カンジダなどの真菌、疥癬虫、ケジラミなどの虫体や虫卵の検査が可能です。

【ダーモスコピー（光源付きの拡大鏡）】

悪性黒色腫、基底細胞癌などの皮膚悪性腫瘍や、脂漏性角化症、いわゆるほくろなどの良性の病変を診断するために使用します。また、保険適用外ですが疥癬虫の診断などにも使用できます。

【トラコーマ^{せし}撮子】

伝染性軟属腫（水いぼ）を摘み取って治療することが可能です。摘除時の疼痛緩和のために貼付用局所麻酔剤の用意もあります。

【液体窒素】

マイナス196℃の液体窒素を用いて、ウイルス性のイボ、脂漏性角化症などを治療します。円形脱毛症治療に使用することもあります。

医療器材、外用薬などは患者さんのご要望に合わせて、これから徐々に充実させていきたいと考えております。

また、勤務内容としましては、月～木曜日は静和記念病院の外来、入院患者さんの褥瘡などの予防・管理を中心に行っております。

金曜日の午前は平和病院、エル・クオール平和、平和リハビリテーション病院への往診、午後は内科医師と共に在宅の患者さんへ往診を行っております。まずは皮膚科の存在を知っていただき、皆様のニーズに応えられる診療に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

平和リハビリテーション病院 新任看護師長のご紹介



写真左）大河文子看護師長 右）平川真奈美看護師長

4階病棟 看護師長 おおかわ あやこ 大河 文子

平成30年2月より4階病棟師長として入職いたしました。20年近く中間管理者として経験を積んできましたが、新たな職場環境に入るにあたり、初心に戻り皆さんと足並みをそろえて、役割を果たしていきたいと思っています。

患者さんご家族、職員にとって安心で安全な療養環境を作ることができるよう、スタッフと一丸となって優しく明るい職場づくりを協働中です。トップダウンではなくボトムアップを引き出せるように、ポジティブフィードバックを心掛けていきたいです。

休日は二匹の猫と戯れながら自宅でゆったりと過ごしリフレッシュしています。



大河看護師長を中心としたカンファレンスの様子

3階病棟 看護師長 ひらかわ まなみ 平川 真奈美

昨年12月より3階病棟看護師長として入職いたしました。その前の2年間は、大学に通うため現場を離れていました。

これからは医療や保健、社会福祉が融合し高齢者をはじめ、社会的弱者と呼ばれる方の生活と人権を守るという使命が私達にはあります。

大学では「家庭福祉」「医療福祉」「地域福祉」「学校福祉」「司法福祉」等を学んだほか、手話講習の中でろう者のこえを聞くなどソーシャルワークについて取り組むことが出来ました。

現場復帰した際はなかなか勘が戻らないと感じていましたが、スタッフの皆さんに支えられながら日々業務に励んでいます。

リハビリを行い、その結果で方向性、退院先が決定するという大きな役割がある当病院で1人1人の患者さん、そのご家族にどのような支援が必要か、また、どのような援助が出来るのか、より良い方法は何かないかなど様々な事を常に考えながら適切な看護を実践していきたいと思っています。



患者さんからの相談にのる平川看護師長

働き盛りだったある日、事故によって両上下肢機能全廃となりました。絶望して、活力が沸かない日々の中、絵に出逢い、そして光が差ししました。「精一杯生きている姿を見せたい！」と詩画展や詩画集の出版、講演など精力的な活動を行ってこられました。絵を描く事が生きる証と口に絵筆をくわえ、家族や仲間たちに支えられて描き上げた作品は約700点。二人三脚で歩んでこられた奥様にお話を伺い、阿部俊明様の思いが一人でも多くの方に届くことを願ってご紹介させていただきます。

【道東の4月にはまだ雪が…】

1995年4月、中標津で鮮魚店を営んでいた阿部さんは、市場に向かう途中運転していたトラックが道路の側溝に落ちる事故に遭遇、頸椎損傷による両上下肢機能全廃となりました。春の訪れが遅い道東中標津、4月の道路にはまだ雪が残っていました。入院中、リハビリを頑張れば歩いて帰れる!と信じ、現実を受け入れられずにいたそうです。

1996年11月退院後、お店に顔を出すと、従業員は汗水垂らして働いている、市場を訪れると同年代の方たちが生き生きと働いている、そんな姿を前にし、顔も上げられない程辛く、絵に出逢うまで笑顔は消えてしまいました。以前は、朝から晩まで毎日働き、たまにバイクに乗ったりスキーをしたりと忙しい日々を送っていたはずが、ある日突然、涙を拭う事も、ふて寝する事も、体温調整する事すらも、一人でできなくなってしまいました。そんな自分と向き合えるようになるまで、他人には推し量れない程の辛さを抱えていた事でしょう。事故以来、夢に出てくるのは魚屋だった頃の元気な姿ばかり。「やり残した事がたくさんあったんでしょう

ね」と奥様。

詩画の中に、『私がもし…、もし今元氣な元の身体に戻ったら…、戻ったとしたら一番先にやりたい事、きつと働くだろう、きつと店へ出て刺身を切るだろう、きつと市場へ行行ってセリ場に立つだろう、もしまんがいちそんな事があったなら…』という作品があります。朝目が覚めた時、一体どんな思いだったのでしょうか。

【絵と出逢い、光が差した】

1997年2月、なかしべつ冬祭りで氷の彫刻を一緒に手掛けていた仲間たちが、設計図の相談に訪れたそうです。言葉だけでは上手く説明できず、もどかしい思いをしていると、娘さんが「□にペンをくわえて描いたら?」とアドバイス。これが絵を描くきっかけになったそうです。□に筆をくわえやすいよう工夫を凝らした道具をお兄さんに作成してもらい、設計図を描いた事が画家人生の第一歩となりました。

ふさき込んでばかりの日々から一転、娘さんに手伝ってもらい、サインペンでチューリップから練習。時間も忘れて1日中夢中で絵に向かったそうです。絵とは無縁の人生で、幼稚

園児の絵と変わらない腕前からスタートし、数年後には写真と見紛うまでに上達されました。

「あんなに早く打ち込めるものに出会えたのは本当に幸せな事、あの人は縁に恵まれていました。東急百貨店の画廊で15年も個展を続けられたのも人との縁があったから、本当に幸せな人です」としみじみ話されていました。

絵を描き始めてから、娘さんに誘われて少しずつ近所にお花を見に出かけたりするようになったのですが、たくさんの人が集まる場所では、帽子を目深に被り目立たないようにしていたそうです。

「中標津は狭い街、すぐ魚屋の阿部さんだっばれて声をかけられるんです。でも声もかけず気の毒にと見て見ぬふりをされるのが何よりも辛かったと思いますよ」と当時の辛い心境を教えてくださいました。

中宮の鮮魚店を夫の分まで担い、一日中働き、家事もこなしていた奥様。そんな多忙の中でも、作品が出来上がるとお店に飾って、みんなに見せていたそうです。段々噂は口伝えに広がり、町内の銀行に展示されるようになり、新聞にも取り上げら



れ、講演に呼ばれたり、中標津で個展を開くまでになったそうです。

家族や仲間に支えられ、絵に出逢い、心の健康を少しずつ取り戻し、そしてあの素晴らしい詩画が出来上がっていったのでしょう。

【家族にとっては当たり前の事】

絵に添えられている詩は、奥様が仕事をしている間、お世話をしてくれていた娘さんが一日の様子を報告していた内容だったそうです。

4年後、鮮魚店を手放してから奥様は娘さんと介護をバトンタッチ。筆をくわえるのも下ろすのも、絵をセッティングするのも阿部さんのペース、また時に苛立って八つ当たりしたり、我が儘を言ってしまったり、それでも家族は、当たり前のように毎日寄り添ってきました。「特に大変という事はなかったんですよ。家族ですから、できない事を助けるのは普通の事です。気難しくなくて接しやすく、子供におだてられると喜ぶ可愛らしい人でした」と奥様。

「家族にもっと色々してあげたい、でも身体が動かない…。心から感謝してるのに素直に言えない…」そんな阿部さんの心の声がいつも届いていたのでしょうね。あの詩画1枚1枚には、そんな家族のたくさんの愛情が込められているのだと知り、改めて心打たれました。

「デイケアで過ごす主人を見たら、
ああ、この人本当に不自由なんだ
なあと思ったんです。家にいると当た

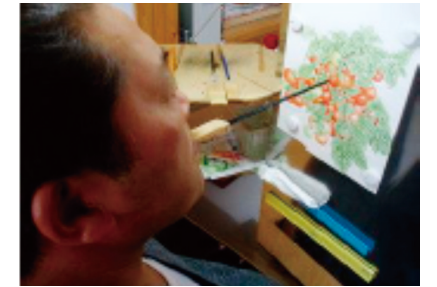
り前にやっていたから普通に気付かなかったんですけどね。それなのに、
□に筆くわえて絵を描いて偉かった
なあって」

あんなに緻密で繊細な絵を、痺れや痛み、熱さやだるさと付き合いながら息を殺して一筆ずつ慎重に集中して何時間も描き続ける。更に色の調整までご自分でこなし、満足いくまで何度も塗り直していたその根気強さには敬服するばかりです。思いの丈を絵筆に込め、仕上がった作品は、同じ境遇の方たちに生きる勇氣や喜び、そして感動をこれからも与え続けていくことでしょう。

【幸せのかたち】

「鮮魚店を営んでいた頃は、毎日忙しくて家族で近所にすら出掛けた事ありませんでしたが、仕事を離れてから、ようやく家族で出掛けられるようになりました。家族らしい生活が送れるようになったのは、あの事故のおかげかもしれませんね」と最後に話された奥様。辛い日々をみんなで乗り越えた先には別のかたちの幸せが待っていたようです。

最期の時は、奥様や娘さんたちの賑やかな声を聞きながら、いつもと変わらないご自宅で迎えられました。たくさんの方に愛され、感謝され、そして数多くの素晴らしい作品を残された阿部俊明様に、静和会職員一同心よりご冥福をお祈り申し上げます。



1948年1月
中標津町当幌に生まれる
2002年9月
北海道新聞社より詩画集出版
2004年7月 北海道新聞社より
二集目詩画集出版
2010年7月 北海道新聞社より
三集目詩画集出版
2010年8月
第10回 阿部俊明詩画展
～生きる喜び絵筆にこめて～
第3集詩画集出版記念
2000年8月から2015年8月まで
さっぽろ東急百貨店にて
阿部俊明詩画展を全15回開催
2011年9月
阿部俊明詩画展開催
長沼町 喫茶店 風楽里（ふらり）
2018年2月25日 永眠

オフィシャルブログから
沢山の作品がご覧いただ
けます



AXI編集委員：
渡辺（訪問看護ステーションことに）
一戸（平和病院）



氷像作成の仲間
中央の赤い帽子が阿部さん



詩画展会場にて奥様と
「ハイ・チーズ」

Working styles

～リハビリテーション科編～

急激な高齢者人口の増加に伴い、生活を多方面からサポートするリハビリテーション専門職の需要が増え、多様化する対象に合わせた専門技術が求められます。

今回はセラピストの皆さんに集まっていた、各施設の取り組みを伺いました。

◆理学療法士(Physical Therapist)以下PTと記す

歩く、立つ、座るなどの基本的な動作の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に運動療法や物理療法等を用いて支援する専門職。

◆作業療法士(Occupational Therapist)以下OTと記す

作業を通して健康と幸福な生活の推進に関わるリハビリテーションの専門職。

◆言語聴覚士(Speech-language-hearing Therapist)以下STと記す

ことばによるコミュニケーションや嚥下に問題がある方々の社会復帰をお手伝いし、自分らしい生活ができるよう支援する専門職。

日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、
日本言語聴覚士協会より

■各施設の特徴を教えてください。

▶【司会：北原】本日司会を務めます静和記念病院作業療法士の北原です。皆さん自己紹介を兼ね施設の特徴と仕事内容を教えてください。



■静和記念病院
主任 北原 千弘(OT)

▶【黒田】医療療養病床を持つ平和リハビリテーション病院に勤務する理学療法士です。運動器、脳血管、廃用リハビリテーションを主に、入院や外来の患者さま、介護予防の通所リハビリテーションを行っています。科長としてリハビリテーション科の管理業務を行っています。

▶【向井原】静和記念病院、平和リハビリテーション病院の勤務を経て、平成18年から訪問看護ステーション「ことに」で理学療法士をしています。看護師さんと情報共有しながら、医療や介護

のすべての利用者さんと関わっています。

▶【江原】介護療養病床と医療療養病床のある平和病院で言語聴覚士と学習療法士をしています。管理業務の他に長期療養や看取り、レスパイト入院、そして在宅復帰支援と言った幅広い患者さまを対象としてリハビリテーションを実施しています。

▶【森】静和記念病院で理学療法士をしています。平成25年の介護保険適用の通所リハビリテーション立ち上げから関わらせてもらっています。現在、厚労省からは通所リハビリテーションの卒業を推進されていて、卒業した方々も安心できるように姿勢教室や静和カフェを企画しています。

▶【乙坂】作業療法士と介護支援専門員の資格を持ち、介護老人保健施設エル・クオール平和で施設全体のリハビリテーションに関わる運営と管理をしています。対象者は要支援1から要介護5の方まで多様です。



■エル・クオール平和
科長 乙坂 道子(OT)

■満足していただくために心掛けていることは？

▶【司会：北原】認知症患者の割合が増え、対応が難しい場合があります。静和記念病院は脳トレ教室など地域住民向けの講演会を行い情報発信しています。患者さまや利用者さまに満足していただく為に施設でどんな取り組みをされていますか。

▶【黒田】長期療養の方にいかに喜んでもらえるかという面ではOTが主催しレクリエーション（集団活動）を実施しています。季節感のある飾りつけをしたり、好評を得ています。今後は生活活動、勉強会、業務改善のチームを結成して活動を広げていきたいと考えています。



■平和リハビリテーション病院
科長 黒田 俊之(PT)

▶【向井原】医療依存度が高い方が多く、出来なくなっていく事がある中、できることを少しでも維持していけるように一緒に考えて、買い物や、地下鉄に乗る練習など日常生活の中で

関わっています。また、訪問看護・リハビリの卒業を目指した関わりもしています。

担当者は決まっていますが、全職種が訪問することで色々な角度から観察でき、多くの気づきが得られ、利用者さまにより相応しい看護やリハビリを提供できていると思います。

▶【江原】平和では重度の認知症の方に対してみんなで集まる場を設けています。昨年からは、身体機能などに併せて、モノづくりができる方にはリハビリ室の入口付近に季節感を出せる作品を作ってもらい、その様子をご家族へ写真にしてお渡しし喜ばれています。



■平和病院
科長 江原 章子(ST)

▶【乙坂】「1訓練1笑い」がモットーです。モチベーションの維持や、気持ちよく帰っていただくことを基本に利用者さまに最大限の能力を発揮していただけるよう意識しています。身体に心地よい雰囲気を残してもらうのが、次につながると思います。経験豊富な職員から新人職員までが関わります。ですから日々、対象の反応を観察し、日々、カンファレンスです。

▶【司会：北原】本日は参加できなかった昆布温泉病院 本間主任(PT)から、レクリエーションの一環としてプランターの苗植えや花の栽培を一緒に行っていると伺っています。出来上がったものを玄関に並べて来院されるご家族、患者さまの楽しみになっているそうです。

■医療と介護の連携について

▶【向井原】看護師など他職種の方に研修に来ていただき、交流を図りたいです。訪問看護の実際を知り、「病院では無理と考える状態でも、在宅療養できるんですね」って驚かれます。無理とあきらめるのではなく、どうやったらできるか、誰かに相談したらどうにかなるかもしれない。相談してほしいですね。



■訪問看護ステーションことに
主任 向井原 麻衣子(PT)

▶【江原】相手の立場を理解してコミュニケーションを図ることが、質の高い連携に繋がって

いくと思います。法人内においてそれぞれの施設がどんなことをしているかを理解するためにわかりやすく公開していくことが顔の見えるつながりには必要なことと感じます。集まる機会があれば、相談もできるし勉強になると思います。

▶【森】「地域包括ケアシステム」を厚労省が打ち出している中で、今後は一人の患者さまをどう支援していくかということがもっと大切になってくると思います。医療から介護、病院から在宅にいたるサービスの充実した静和会で連携できることは強みになると考えています。



■静和記念病院
主任 森 文子(PT)

▶【黒田】法人内の連携については、なかなかできていないのが現状。例えば結果報告会とか、集まる機会をつくり、静和会のリハビリテーション科としての活動を立ち上げることができればいいですね。

▶【司会：北原】この場で皆さんとお話することができ、各施設の状況や希望を知ることができました。更に医療と介護のサービスを広く提供できる静和会を利用してもらうために、このような意見交換の場が増えてほしいと強く思っていることを知りました。是非、意見交換の場を作っていきたいですね。本日はありがとうございました。



多職種が働く静和会の中でも、創意工夫そして努力が形となっているリハビリテーション科です。
参加いただいた職員の益々の活躍はもちろん、静和会各病院、介護施設の活動にどうぞご期待ください！！

AXIS編集委員：菊池（札幌市西区第1地域包括支援センター）
安田（昆布温泉病院）

静和会の琴似看護専門学校は平成30年で50周年を迎えました。1327名の看護師が羽ばたき、北海道内外で活躍しています。

今回は、今年3月に学校を卒業し、法人内の医療機関に勤める看護師と法人内の病院で働きながら学ぶ看護学生を紹介します。卒業生からは抱負や在校生へ向けた温かいエールを、そして在校生からは学校生活での楽しみや将来の夢などを教えてもらいました。

思い出しませんか？誰もがあんな時代があったこと、あの頃の事。

法人内で★キラリ★とひかる、新星ナースへの質問！

- ①あなたの考える、看護とは何ですか、教えてください！
- ②在校生へ向けたエールをお願いします！



感慨深い卒業式

★静和記念病院 たか せ はるか 高瀬 遥 さん★



①在学中の実習で、一人の患者さんと深く関わりを持ちました。病気に対する不安はもちろん、日々の入院生活に対する不安や戸惑いを抱えながらも、誰にも打ち明けられずに、孤独を感じている患者さんが多くいることが分かりました。日々の業務の中で、患者さんの発する言葉や表情をよく見て聞き、声を掛けることで少しでも心を軽く出来るようなきっかけを多くつくれるよう、患者さんと関わっています。毎日の忙しい業務の中でも“痒いところに手が届く看護”を心掛けて、これからも患者さんと関わっていききたいと思います。

②毎日の就業と学業の両立、家庭での育児や生活、加えてテスト勉強や実習の日々。丸一日休める日はほとんどなかった学生時代でした。在校生の皆さんも一日を乗り切るのが精一杯な忙しい毎日を過ごしていると思います。ですが、学校での学びが臨床で生き、臨床での学びが学業へ生きます。辛いときは家族、友達、先生、誰かに相談。愚痴を言って、目標を見失わず大事な学生生活を過ごしてほしいと思います。為せば成る！！頑張ってください！！

★静和記念病院 こ しま わたる 小島 渉 さん★



①人は誰もが様々な社会背景の中で人間関係を築き、仕事や趣味など生活を営んでいます。人は病気を患うことによってそれまで営んできた生活の一部を切り取られてしまいます。私にとっての看護や医療とは、その切り取られた部分を補うことだと考えます。ですので、医療従事者にとって一番大切なことはその人が疾患によって出来なくなったことを見誤らないことだと思います。

②看護学生にとって避けて通れないものと言えば実習です。もちろん、実習は楽ではなく、いくつも辛いことが待っています。在校生の皆さんは准看護師として働いている方が大半だと思いますが、実習は今まで自分が培ってきた看護を省みる最大のチャンスです。振り返ると教員や指導者の言葉を真摯に受け止めた同級生ほど大きく成長していたと思います。資格を取得することはもちろんですが、皆さんも実習を成長のチャンスにし、卒業後に良い看護を出来るように頑張ってください。

法人内で♥働きながら学ぶ♥看護学生への質問！

- ①学校生活のなかで見つけた楽しみを教えてください！
- ②どのような看護師さんになりたいか夢を語ってください！
- ③将来進む道について教えてください！



卒業研究により看護を深める

♥琴似看護専門学校1年生 もり した 森下 みなよ さん♥



①クラスの仲間は、全員准看護師の免許を持っていて、経験年数の長い人や私と同じ1年目の人もいて、准看護学校時代には出来なかった仕事の話が出来て楽しいです。他にも、趣味の話をして盛り上がったりすることが出来る友達ができ、就業後の勉強も頑張ることができています。

②忙しくても患者さんを第一に考え、寄り添えるような看護師になりたいです。今は処置を行う際に、処置だけに集中してしまい、患者さんを気遣うことがあまり出来ていないと感じます。技術を身に付け、声掛けや反応を見ながら対応できるようになりたいです。そして、常に笑顔で明るく患者さんと接することができる看護師になりたいです。

③就業と学業の両立を頑張っ、正看護師の免許を取得したら、将来は急性期を中心に学んでいきたいです。急性期の中でも、准看護学生時代に興味を持つことが出来た循環器を深く学びたいと思っています。

♥琴似看護専門学校2年生 せん とく ゆう か 仙徳 夕佳 さん♥



①学校生活の中で見つけた楽しみは、同じ目標を持つ「仲間」とのコミュニケーションの時間です。日々、仲間から刺激を貰い、吸収し、自身を成長させています。

②患者さまの中には、入院生活による環境変化や自身が置かれている病態に困惑したりと、様々な思いの方がいると思います。その思いに寄り添い、看護ケアに繋げ、提供できる看護師になりたいです。

③看護師免許取得後は、脳神経外科の看護について学んで行きたいです。

♥琴似看護専門学校3年生 うち だ ちより 内田 千雅 さん♥



①日々の仕事や学習は大変ですが、親身に相談に乗って頂ける先生方やクラスメイトに支えられ、時にクラスで飲み会をし、友達と旅行に行き、メリハリのある充実した学校生活を送っています。

②患者さん一人ひとりのコミュニケーションを大切にしたいと考えています。そのためには、豊富な知識と的確な技術を身に付けたいです。一緒にいるだけで安心して貰える看護師になりたいです。

③いつか緩和病棟やホスピスで働きたいと思っています。がん患者さんの初期治療からの流れを学習し、患者さんの思いを汲み取れる看護が出来るよう学んでいきたいです。

静和記念病院**■医局****【発表】**

小野博美、二瓶壮史、村上正道、川俣 太、林 秀幸、草野満夫、十二指腸浸潤を合併した上行結腸癌の2例、第103回日本消化器病学会総会(東京 2017.4.22)

Hiromi Ono, Choichi Sugawa. Caustic injury of the upper GI tract: Who needs dilatation or surgery? 第93回日本消化器内視鏡学会総会(大阪 2017.05.11)

小野博美、二瓶壮史、川上雅人、檀上 泰、草野満夫、長島君元、林 秀幸. PEGによる経管栄養は高齢者肺炎の予後不良因子か?-経口摂取患者との比較-. 第22回PEG・在宅医療学会学術集会(札幌 2017.09.23)

小野博美、二瓶壮史、草野満夫、林 秀幸. 経皮内視鏡的胃瘻造設術を中止した症例に関する検討と対策. 第25回日本消化器関連学会週間(JDDW2017). (福岡 2017.10.14)

長島君元. 気道確保困難対策におけるマックグラス、経鼻エアウェイ、ガムエラスティックブジーの組み合わせ. 第37回日本臨床麻酔学会(東京 2017.11.3)

小野博美、二瓶壮史、林 秀幸、福島 拓、川上雅人、檀上 泰、草野満夫、長島君元. 医療・介護関連肺炎(NHCAP)は高齢者肺炎の予後不良因子か?-市中肺炎患者との比較検討-. 第43回札幌市医師会医学会(札幌 2018.02.18)

小野博美、草野満夫. PEGによる栄養管理は高齢者肺炎の予後不良因子か?-経口摂取患者との比較検討-. 第33回日本静脈経腸栄養学会(横浜 2018.02.22)

■看護部**【雑誌】**

岡井美香. オンデマンドを利用した教育プログラム・外来非常勤看護師に期待するもの. 外来看護. 23(1):17-23. 2018年2月.

【座長】

柴田貴子. 第一群. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

【発表】

清水洋美、志藤ももこ、横山智津子、野月洋美、菊池弘美. 当院の外来看護の見える化をめざして～患者情報に関するアンケートを試みて～. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

横山智津子. 外来看護の見える化をめざして～患者情報に関するアンケートから～. 第16回北海道病院学会(札幌 2017.7.22)

山本明子. 当院における中央化の現状 -患者日用品から医療器材まで-. 第46回北海道中材業務研究会(札幌 2017.11.11)

■リハビリテーション科**【座長】**

西川典利. リハビリテーション部門(3). 第38回札幌市病院学会(札幌2018.2.3)

【発表】

玉木 領、井元 渉、隅木万里江、濱田弥生、藤田千弘. 当院で行っている地域での認知症予防の試み. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

今井梨絵、池田明美. 口腔内環境が嚥下機能に与える影響について. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌 2017.5.20)

土橋由夏、鍋澤 拓、小柳久希、高橋百実、石井 翔、石田幸、佐々木翔平、西川典利. 低栄養を呈した高齢者におけるADLと身体因子の関連について～栄養評価に着目した検討～. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌 2017.5.20)

藤林美帆. 健康相談会に参加された地域住民の運動器障害について. 第38回札幌市病院学会(札幌2018.2.3)

今井梨絵. 口腔内環境が嚥下機能に与える影響について. 第16回北海道病院学会(札幌2017.7.22)

土橋由夏. 低栄養を呈した高齢者におけるADLと身体因子の関連について～栄養評価に着目した検討～. 第16回北海道病院学会(札幌2017.7.22)

■事務課**【発表】**

山上 恵、麓 舞、鳴海まい、實盛由紀子、中島温美、原浩、工藤健太、田邊美佐恵、清澤 修、畠山和久. 当院の疾病統計. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌 2017.5.20)

畠山和久. 病院実習の充実に向けた取り組み. 第43回日本診療情報管理学会学術大会(札幌2017.9.22)

平和病院**■看護部****【発表】**

高木 淳、武藤典子、松本帝志、三浦公太、岡崎美智子、平田洋子(1病棟). 介護療養型医療施設におけるケアの肯定的側面を考える～重度認知症高齢者ケアで体験する“喜び”とは?～. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌 2017.5.20)

鎌田千鶴子、横山智子、小山美香子、稲垣純子、五十嵐由美、田畑賢二. 離床時間の充実を目指して～スタッフの意識の向上を図る～. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

小甲久美子、北川 香、伊藤健志. レクリエーションへの新たな試み～日常生活機能及び意欲の変化を検証する～. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

■リハビリテーション科**【発表】**

伊藤壮司、江原章子. 集団リハビリテーションを施行した重度認知症患者の変化. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

加藤祐希、江原章子. 学習療法の実施とその効果～認知機能・コミュニケーション面の効果～. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

昆布温泉病院**■看護部****【座長】**

栗本ひとみ. 第三群. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

【発表】

酒井康子、柴田陽子. 患者様に寄り添った看護ケアを考える. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

横屋正子、木次谷洋子. 認知症患者様の身体拘束をやめて～患者様のリズムに合わせた支援～. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

平和リハビリテーション病院**■看護部****【発表】**

早田由紀子、坂尻美鈴、原子一枝. 誤嚥せず自力摂取するための援助. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌

2017.5.20)

阿部和明、石川由紀恵、今野幸江. 皮膚脆弱な患者に対する緑茶微温湯洗浄使用のスキンケアが及ぼす効果. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

エル・クオール平和**■看護・介護部****【発表】**

斉藤宣人、軽木 淳、齋藤由紀恵、工藤慎也、工藤裕美、種田まゆみ、大久保抄織. 老健における夜勤業務変更の効果. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

谷規久子、菅谷清美、大久保抄織、三浦直子、山下いずみ、菅原昌子、澤田 萌、山田律子. 事例検討会を通して身についた老人看護専門看護師としての必要なアセスメントの視点. 日本老年看護学会(名古屋2017.6.16)

【研修会講師】

大久保抄織. H29年度認知症看護対応力向上研修 東北・北海道地区「入院中の認知症患者に必要なアセスメントと援助技術」日本老年看護学会第22回学術集会(札幌2017.10.1)

大久保抄織. 北海道大学病院 認知症看護実践能力向上研修「認知症ケアに関連する倫理的課題と意思決定支援」北海道大学病院主催(札幌2017.12.19)

■通所リハビリテーション科**【座長】**

長尾 俊. 第二群. 第15回医療法人社団静和会研究発表会(札幌2017.5.20)

琴似看護専門学校**【論文】**

山下真智子. 2年課程看護学生における批判的思考態度と動機の欠如との関連・心理学系大学生との比較検討. 日本ヒューマンヘルスケア学会誌. 2(1):59-68, 2017年7月.

第16回 医療法人社団 静和会 研究発表会

平成30年5月19日(土) 於「ちえりあ」



いざな
医療史への誘い

第4話 全身麻酔への挑戦 ―華岡青洲― 静和会 理事長 川上 雅人

【近代麻酔に先駆けて】

1804年10月13日、近代麻酔の起源とされるウィリアム・モートンがエーテル麻酔科における手術の公開実験に先駆ける事42年前の紀州(和歌山県)の農村で、記録に残る医療史として世界で初めて外科手術が施行されようとしていた。患者は、60歳、女性、病名:左乳がん、執刀医は華岡青洲、彼はこの手術によって、当時、欧米でも不可能と言われていた、患者に苦痛を与えることなく、腫瘍を取り除く偉業に挑もうとしていた。

【痛みによる苦痛からの解放を願う】

覚えていらっしゃるだろうか、前号の行雲流水で、外科の由来は、必ず人の身体に傷跡を残す外科の学問からきていると書かせていただいた。当時の外科治療の現場は、凄惨なものであった。現在のよう麻酔や抗生剤はなく、切断や切開、摘出など、外科適応の患者は、施術による痛みで泣き叫ぶしか術はなく、切断などの場合は、洋の東西問わず、気が狂わんばかりの痛みで苦しむ患者を押さえて実行するしかない、まさに地獄絵図であり、鬼の所業であった。代々の村医者で長男であった青洲は、幼少から父の医療の現場を手伝い育っていく、その凄惨な現場は恐怖であり、患者を痛みによる苦痛から解放できないかと思うようになっていったことは想像に難くない。その後、青洲は、22歳より京都で医術修行を行い、古来の東洋医学とオランダ式外科学の折衷医術を学ぶ。中国の三国志時代に特別な薬(麻沸散)を使い外科手術を行った「華佗」や乳癌の治療



トリカブト

療法について「永富独嘯庵(ながとみどくしょうあん)」にも大いに影響を受けたと言われている。3年後、帰郷した青洲は彼の偉業を生命を懸



曼陀羅華 (チョウセンアサガオ)

けて支えた加恵と結婚。村医者として人々の診療に当たった。しかし、やはり外科の現場は悲惨である。かねてから夢である痛みの伴わない外科手術に向けて、前人未到の全身麻酔薬の研究を開始した。

【麻酔薬を求め、試行錯誤は続く…】

研究は困難を極め、青洲は古今の文献を調べ、野山に野草を求め、と様々な試行錯誤を繰り返していた。その探求の中で、“華佗”の麻沸散には、曼陀羅華(チョウセンアサガオ)が含まれていることを突き止めた。しかし、曼陀羅華には、鎮痛作用や幻覚作用があることは判明したが、麻酔としての効果は乏しく他に何かを組み合わせる必要があった。その中で青洲が目にしたのは、現代でも殺人に使われる猛毒で強い鎮痛作用を持ったトリカブトであった。青洲は猛毒ゆえに多くは使えないトリカブトの他に様々な薬草を探し調合、試薬ができると野良犬などで実験し、10年をかけて最終的に曼陀羅華、トリカブトを主成分にした6種類の薬草に麻酔効果があることを発見した(通仙散)。しかし、動物実験においても、多くの動物が死に至っており、麻酔薬としての「通仙散」を医療として使うためには人間による効果の検証が必要であり、執念にも似た青洲の麻酔薬への挑戦は行き詰まってしまった。悩み続ける青洲を見て、ついに母である於継が、こう申し出たという。「実験は、私を使ってやりなさい」……

次回につづく

編集後記

1869(明治2)年8月15日、蝦夷地は北海道と命名されました。命名150周年の今年、積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返り、感謝する節目と捉えながら、次の50年に向けた未来の北海道を展望し、記念式典が各地で行われています。私たちも仲間と手を取り合い、足元を踏み固め、未来に静和会の足跡を残していきましょう。さあ、次の50年に向けてスタート！

AXIS編集委員会